

グループ名	家族写真倶楽部
実行委員数	合計 7名 (女性 : 0名 男性 : 7名)
テ ー マ	浅田政志氏講演会『パワー全開！家族写真』
講 師 等	写真家 浅田政志氏
参加人数	合計 30名 (女性 : 19名 男性 : 11名)

(開催趣旨)

家族写真を通じ、家族の絆を考える機会づくりとする。

「家族写真は、家族の話し合いから始まる」と訴える写真家 浅田政志さんのお話から、参加者に家族の再認識作業を始めてもらい、ひいては性別役割分担意識やワーク・ライフ・バランスなど男女共同参画の視点を意識してもらうこと、また、コミュニティの再生につながるための他者との幅広い交流につなげてもらうことなどを目的に、本分科会を開催する。

(内容)

家族写真をテーマにした写真集「浅田家」で、写真界の芥川賞といわれる木村伊兵衛賞を受賞した浅田政志氏を講師に迎え、『パワー全開！家族写真』を開催。写真家 浅田政志さんに、写真が持つ力や写真に託せる家族の記録術などお話しいただいた。

当初、本講演会は、調理室での開催を予定していたが、前日の会場下見の際、プロジェクターを使用するにはあまりに明るすぎるとの指摘があり、急遽、会場を会議室3及び多目的室に変更し開催した。また、事前に参加申込みをいただいていた11名は、当日2名の欠席となったが、最終的には目標の定員30名を集めることができ、主催者としてひと安堵であった。

講演会開催にあたり、主催者である家族写真倶楽部から、自らの組織結成に前年度のコムズでの浅田さんの講座がきっかけとなっていることを紹介し、講師の紹介へと移る。講演では、浅田さんがプロジェクターを使い、数々の作品を投影しながら、その撮影エピソードや作品に寄せる思いなどを紹介。木村伊兵衛賞受賞作の「浅田家」のほか、続編の「NEW LIFE」、ゆるキャラ日本一のくまモンを撮影した話題作「くまモン、どこ行くの?」、そして最新作の「南予写真 NANYO」の各作品を披露。加えて、現在製作中のバリエーション写真集の一部も披露していただいた。



後半は、併催の家族写真展覧会『MY家族・愛KAZOKU』の出展作品の一部にふれ、浅田政志賞作品を選定。公開による受賞者への写真レクチャーを行い、セルフターマー使用による家族写真撮影のコツなどを伝授いただいた。

(参加者の声)

- ・ 昨年の浅田さんの講演会にも参加し、浅田さんにはいつかまた会える気がしていたので、再会に感動しました。浅田さんは、やっぱりすばらしい人。いつか浅田さんに家族写真を撮ってもらいたいです。
- ・ 私が撮った家族写真をプロの写真家である浅田さんにほめてもらえてうれしかったです。本当は夫も子どもも楽しみにしていたのに、二人とも風邪で来られなくてとても残念そうでした。また、みんなで家族写真を撮りたいと思います。
- ・ 南予の写真集やバリィさんの写真集など愛媛に縁のある活動をしていることを初めて知りました。また愛媛に来て、いろんな写真を撮ってほしいですね。
- ・ すごく気さくな方でびっくりしました。写真集にも一人ひとりていねいにメッセージやくまモンのイラストまで書いてくれて、すごく親しみを覚えました。バリィさんの写真集も絶対買います。
- ・ 浅田さんの写真は、家族や地元の方など素朴な素材を撮影対象にしていますが、さすがは写真家、すばらしい作品ばかりです。それらの中にはそれぞれに物語が息づいていて、そのすべてが彼の人間性を投影した人の生活の記録であると思いました。

(まとめ)

今回の講演会に併せ開催した『家族写真展覧会』には、33の作品が100字コメントとともに寄せられ、参考出展の9作品と合わせた42作品すべてを一堂に展示することにより、さまざまな家族のコミュニケーションスタイルを理解し共有する機会とできた。そしてすべての応募者に対し、浅田さん自身がコメントをしてくれたことで、それぞれの家族へエールを送ることもでき、同時に、鑑賞いただいた多くの市民のみなさんに、家族というものの大切さを個別具体的にメッセージできたのではないかと考えている。

その浅田さんが自らのことばで語った講演会では、浅田さんが作品づくりに込める彼ならではの思いや、日頃から家族に感じている細やかな愛情など、写真家として、また一家族員としての飾らない表現が、参加者の共感を得たように思う。

また後半の写真レクチャーでは、撮影のテーマを決める作業から始め、テーマに合った構図のとり方や、被写体となる人への気分の盛り上げ方など、プロの仕事振りを垣間見させていただき、講師の人間性と同時に、職業人としてこだわりの一面を物語る一コマとなった。

今回の分科会開催が、多くの人の家族のあり方を考える機会づくりになったとすれば、参画のチャンスを提供したことに心から感謝したい。

